

平成 24 年 9 月 4 日 予算監視・効率化チーム会合議事概要

◇奥田副大臣（チームリーダー）挨拶

予算監視・効率化チーム会合においては、平成 22 年のチーム発足以降、チーム会合 7 回、事前審査ワーキングチーム 14 回、延べ時間にして 40 時間の審議・審査を実施するなど、納税者の視点に立って、予算の効率化に向けた取組を積極的かつ着実に進めてきているところであり、委員の先生方には、外部の視点から十分審査いただき、闊達なご議論をよろしくお願ひしたい。

◇行政事業レビューの結果の概算要求への反映状況

会計課長より資料に基づき説明

チームメンバーからの発言

- 行政刷新会議による横断的見直しの視点のように新しいことを取り入れることは有意義であり、横断的見直しの視点を活用すると議論の整理がしやすいが国土交通省の横断的見直しの視点と行政刷新会議の横断的見直しの視点はおよそ重なっており、今後の行政事業レビューでは各府省の横断的見直しの視点により検証するのか、政府全体として行政刷新会議による横断的見直しの視点をを用いるかを整理しておく必要がある。
- 行政事業レビューシートの評価項目を個別に見ていくと点検結果について見解が一致していない事業もあり、行政事業レビューシートの記載において疑問を感じるものもある。
- 行政事業レビューにおいて平成 24 年度をもって廃止とされた事業について、政策目的自体は廃止となっていないものの、これに替わって平成 25 年度概算要求にて、同一の政策目的に対して新しい手法を用いて実施する新規事業がある。こうした事業を行政事業レビューの評価において廃止とすることは民間のコスト削減の感覚と照らし合わせると、違和感を覚える。
- 全体目標ごとに事業を束ねられると、その目標に向かっていくつかの事業があり、目標に対してどのような効果があったかということの評価することができ、行政事業レビューとしてわかりやすくなるので大きな目的別に分別できるものは、調整した方がよい。
- 平成 24 年度当初予算と比較して、平成 25 年度概算要求額を削減した額のみを反映額としているが、限られた予算をより有効に使うことが本来の効率化であり、予算の有効活用をアウトプットとして全府省共通の行政事業レビューで評価することも必要である。

◇平成 23 年度「旅費・庁費に関する支出計画」及び特定経費の年度執行結果

会計課長より資料に基づき説明

チームメンバーからの発言

○計画を立て執行を行ったことにより、年度末の駆け込み執行がなくなったということは評価できる。

旅費については割引運賃等を活用してコスト削減を図ったことは結構であるが、出張そのものが減っていくことは必ずしも良いことではない。国土交通省の業務は全国に広がっており、職員はより多くの現場に行ってもらわなければいけない。

○コスト削減は大変良いことであるが、出張の回数が減っているのか、1回の出張での単価が減っているのか、この資料では読み取ることができない。

コスト削減をどのように成し遂げたかの要因分析がわかる資料と今回提出されている資料を組み合わせたものを出していただけるとこちらも評価がしやすい。

◇平成 24 年度調達改善計画の実施状況

会計課長より資料に基づき説明

チームメンバーからの発言

○競争性のない随意契約や一者応札を解消し、競争性を高めることは重要だが、公共工事については、それだけでは収まらない問題がある。

公共工事は、全体のパイが減少し、建設業者の新規参入も減少。業者の技術者の高齢化も進み、若手技術者も減少。技術者の育成も必要であり、新しい時代に合わせた根本的な在り方を考える必要がある。

◇公益法人に対する支出・点検の見直し

総務課長より資料に基づき説明

チームメンバーからの発言

○特になし。

※「チームメンバーからの発言」は政務二役及び外部有識者の発言をとりまとめたもの